

米ハイテク株、4月決算発表「底固め」焦点

SOXの4月安値、過去9年は8割近く年末高に

2022/4/8 (金)

米ハイテク株は4月の決算発表に向けて、当座の底固めが注目されそう。引き続きFRBの金融引き締め加速や米金利上昇、各種コスト高騰、戦争とコロナの不透明感といった悪材料が覆っているが、世界的に半導体不足等で繰り延べされた需要や日進月歩のデジタル技術進化などに対応した需要は残存している。季節要因として米国株は4-5月に下落しやすいが、米国の代表的なハイテク株指数であるフィラデルフィア半導体株指数(SOX)は過去9年、8割近い確率で4月の安値から年末にかけて切り上がってきた。

4月後半の決算ピークと5月初旬FOMCにらむ

「米半導体メモリー大手、マイクロン・テクノロジーによる昨年12月-今年2月期の決算では、DRAM、NAND型フラッシュメモリーとも、データセンター向けなどで引き続き旺盛な需要が見られた。先端技術を適用したメモリー製品の割合が増え製造コストが低減し、大幅増益につながった」(3月29日)、「韓国のサムスン電子による今年1-3月期の決算発表では、四半期の売上額が過去最高を更新した。一時的にデータを保存する半導体メモリー、DRAMの価格は下落傾向が続いたものの、サーバー、モバイル機器、グラフィックス向けの先端製品と高付加価値製品のウエートを高めたことで好業績につながった」(4月7日)――。

世界のハイテク大手による最新の決算発表では、このような打たれ強さが示されている。

米国株市場では4月中旬から後半にかけて、ハイテク企業による1-3月期の決算発表が相次ぐ。関連株については決算内容を見極めつつも、「複合打撃に対する耐性の増強確認」や「当座の悪材料の出尽くし」などを受けた当座の底固めが注目されそう。ハイテク関連の先行きについては米マイクロン・テクノロジーが3月29日の決算発表で、3-5月期の売上高を約87億ドルとし、アナリスト予想平均の82億ドルを上回る強気予測を打ち出していた。

もちろん、米国のハイテク株については、引き続きFRBの金融引き締め加速や米金利上昇、各種コスト高騰、ウクライナ戦争と米国内外でのコロナ感染の不透明感といった悪材料が覆っている。その反面、世界的に半導体不足等で繰り延べされた需要や、日進月歩のデジタル技術進化などに対応した需要は残存したままだ。ハイテクは他業種との相対比較で資源高やインフレ、コロナ感染などに耐性があるほか、戦争打撃については世界各国での国防費増強により、最新鋭の装備・部品などでハイテク関連

には新たな需要余地が生まれている。

米国株全体の季節要因としては、4-5月に下落の圧力が強まりやすい。一方で米国の代表的なハイテク株指数であるフィラデルフィア半導体株指数(SOX)については、4月の決算発表や1-3月における新年運用資金の流入一服などを受けた「4月の株安」が当座の安値となるパターンも観測されている。

リーマン・ショック後の正常化進展などを受けた2013年以降、過去9年では4月のSOX月間安値に対し、12月の月末値が上回る「年末高」は7回となっている。確率では78%と8割近い。短期スパンでいえば4月のSOX安値に対し、6月の月末値が上回るのは9回と10割の確率だ。その意味で今年も4月後半にかけての決算発表が、米ハイテク株の一旦の買い場として注目されやすい。

ちょうど米国株市場では、5月3-4日にFRBの次回FOMCが予定されている。現段階から0.5%の大幅利上げや量的引き締めの加速を織り込み始めているが、4月後半にかけての決算発表と5月上旬のFOMCは「当座の悪材料の出尽くしイベント」となる可能性をはらむ。

SOX下落率や米債金利の上昇幅、過去節目に

最近でも前回の決算発表である今年1月には、決算警戒のほか、FRBの引き締め加速懸念と米金利上昇、各種コスト高騰などもあって、SOXが急落する場面があった。しかし、決算発表の進捗とピークアウトを受けた1月28日が安値となり、一旦の反発に転じている。

その後は2月後半からのウクライナ戦争などで再下落となっているが、4月6日時点でSOXはまだ3月14日の直近安値を割り込んでおらず、「底抜けと一段の下値模索」移行は現状回避されている。

SOXは下落率という点でも年初からの株安進行を受けて、一旦の価格調整の進捗が示唆されつつある。まだ単発的に下押しリスクは残るものの、上下動を経ながらの下落余地の狭まりと下値固めが注目されやすい。

4月は3カ月前比の騰落率(月間安値÷3カ月前の月間高値)が、6日時点で-22.2%となっている。3月の-25.3%からは、現状下げ渋りとなってきた。コロナ・ショック以前における急落と下落率拡大のピーク、SOXの底入れケースとしては、2018年12月の-24.6%、2015年8月の-27.5%、2012年6月の-21.6%、2011年8月の-27.8%といった実績がある。今回は3月の-25.3%という調整の進捗で、

過去の下限ゾーンには接近しつつある。

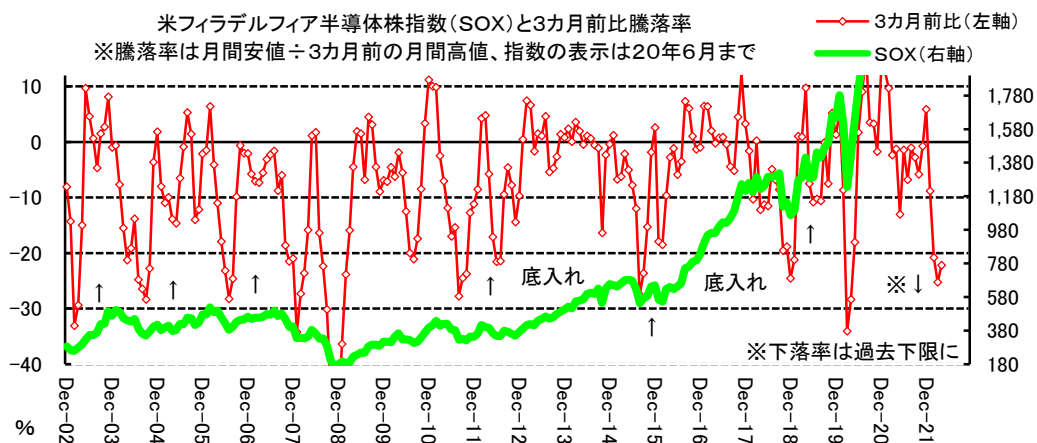
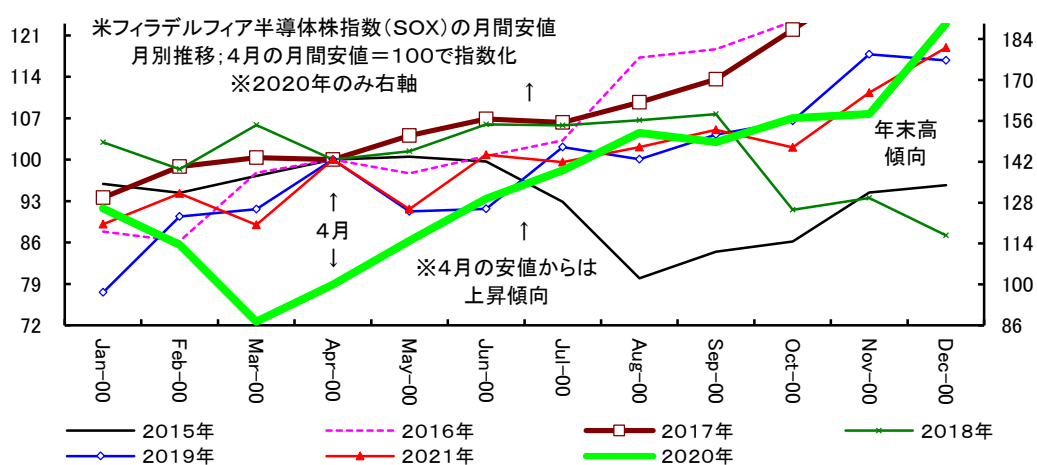
SOX の長期スパンでの重要な下値抵抗線としては 2009 年以降、12 カ月移動平均線を中央値としたボリンジャーバンドのバンド下限（4 月 6 日時点で 3001 前後）、24 カ月移動平均線（2988 前後）などがある。直近の 4 月 6 日は終値が 3193 であり、長期テクニカルでも当座は一旦の下げ止まりが焦点になる。

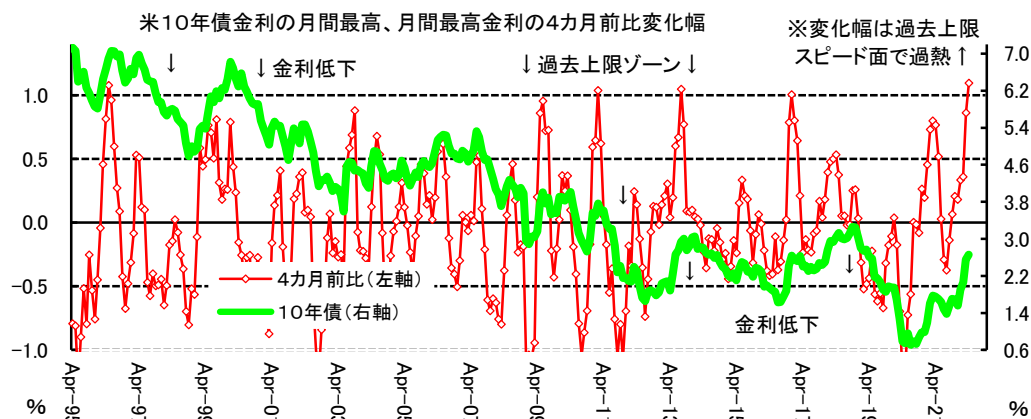
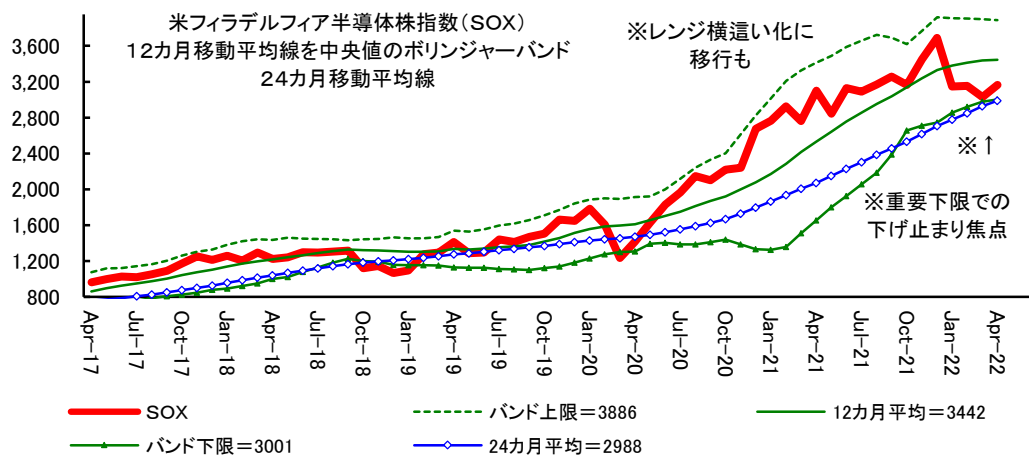
その他、米株 SOX については現状、米国債金利の急上昇（米債価格は急落）が悪材料になっている。当座は米国債と米国株ともに、売りが売りを呼ぶ負の連鎖のオーバーシュート・リスクの残存余地は消えていない。米 10 年債金利は 4 月 6 日に 2.65% 超え場面があるなど、約 3 年ぶりの高水準となってきた。

一方で米 10 年債金利の月間最高は、昨年 12 月の

1.56% 前後から 4 月は +1.10% 幅の急上昇となってきた（4 カ月前比）。スピード面では、短期的に金利上昇の過熱感も意識され始めた。過去に 4 カ月前比での金利上昇幅の急拡大ピークは、2016 年 12 月の +1.01% 幅、2013 年 8 月の +1.05% 幅、2011 年 2 月の +1.04%、2009 年 6 月の +0.95% 幅、2003 年 10 月の +0.88% 幅というパターンが繰り返されている。

過去実績では +1% 幅の前後が上昇過熱のメドとなり、いずれも金利急上昇の上げ渋りや反動調整的な金利低下へと移行してきた。今回も足元では上限ゾーンに達しつつあり、先行きスピード調整による米 10 年債金利の急上昇一服と、連動した米ハイテク株の下げ渋りや反動反発のタイミングが注視されそうだ。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。